

地域の皆さまへの説明会
2018年1月柏崎会場（30日）刈羽会場（31日）

緊急時対策所について

【ご質問】

5号機の中に緊急時対策所を設置すると言われているが、長期的な視点で5号機が稼働する時はどうするのか。それとも、将来的に5号機は稼働しないと考えているのか。（柏崎会場）

【ご回答】

どの号機をいつどうするというのは、今、はっきりしたものは持ち合わせておりません。仮に将来5号機が運転プラントになれば、当然、緊急時対策所を設置することは出来ないで、新たな対策所が必要となり、現在、こちらについても併行して検討しています。

【ご質問】

5号機緊急時対策所が狭くて職員がかわいそうだ。事故想定シナリオに本当に対応できると思っているのか。（柏崎会場）

【ご回答】

緊急時対策室に関しては、当社も5号機の広さを模擬し、実際の場所でも訓練を続けております。訓練をした実感としては、しっかり情報を把握することができれば、緊急時の対応ができると考えており、これまで活用してきたコミュニケーションツール等を整理した上で、しっかり対応できると考えています。

【ご質問】

新しい緊急時対策所を作る時期を明らかにして欲しい。できないならできないで理由を明らかにして欲しい。（柏崎会場）

【ご回答】

5号機とは別の緊急時対策所を作る時期は検討中です。必ず作るものだと思っています。ただ、まずは、6、7号機に対する緊急対策所として5号機の緊急時対策所をしっかりと作ることに注力します。また、6、7号機について設置変更許可を頂いたばかりであり、6、7号機も含め、いつ何号機が起動するかという確たるものではありません。

【ご質問】

5号機緊急時対策所は大きな地震に対応できるのか。（刈羽会場）

【ご回答】

5号機緊急時対策所については、原子炉建屋内に設置してあることから、十分な耐震性は有していると考えていますが、十分な耐震性を有しているか、遮蔽はどうか、などの検討を改めて行い、緊急時に十分な対応ができるよう設計し、工事計画認可の中で審査をいただくこととしています。

原子炉など機器の耐久性 / 耐震性について

【ご質問】

原子炉は地震に耐えられるのか。基準地震動を上げたら原子炉の耐久性も上げないといけないと思う。他を補強しても原子炉の補強はしていない。原子炉の安全率はどの位なのか。(柏崎会場)

【ご回答】

原子炉の安全率に関しては、規格に基づく安全裕度・設計裕度を確保しないと、これから実施する工事計画認可申請の強度計算が認められません。従って、定められている設計裕度は、これからしっかり確認していくこととなります。また、原子炉本体そのものは内圧に対する裕度が支配的になっており、そこは確保できています。一方で、地震に関しては、サポートの強化や、配管の増設など、しっかりと実施しなければならないことが出てきていますし、現在、既に工事をしているところもあります。原子炉については、規格・基準に基づき、裕度をしっかりと確保していきます。

【ご質問】

先ほど、「圧力容器は検査しているから大丈夫」と言った。検査には色々あるが、いくら合格しても、そのあとに疲労破壊とかもある。どんな検査をしても福島は壊れた。原子炉は地震でやられる。「検査しているから大丈夫」というのはやめて欲しい。(柏崎会場)

【ご回答】

先ほどの回答が不十分だったかもしれません。勿論、製造時の検査だけで十分とは考えておらず、原子炉圧力容器のような重要な構造物に関しては、そもそも設計段階から金属疲労のような評価もしますが、運転開始してからも、設計の時に考えたことが、その後の運転においても、その範囲内に収まっているかどうかという思想のもとに、供用期間中検査というものを行っています。その検査の中で、不具合が見つかったら検査の範囲を増やす、そして評価をする。というように、しっかり設計通りになっていることを長年にわたって確認していくことになっています。その上で、さらに、万一、欠陥があったとしても脆性破壊のような破局的な破壊に至る事の無いよう、圧力・温度を管理した運転を行い維持・管理をしています。

【ご質問】

代替熱交換設備は外付けか。外付けだとすると原子炉建屋と耐震強度と基準が違うはずなので、外付け部分が持たない場合がある。強度が違う建物だと、ジョイント部が切れたり不具合が起きるがどうなのか。(柏崎会場)

【ご回答】

代替熱交換設備は一部外付けです。接続部についてはフレキシブルホースを利用し、耐震設計もしており、変位にも十分耐え得る設計としています。熱交換器用の車も地震による転倒がないか確認しております。

原子力規制委員会による説明会について

【ご質問】

約1ヶ月前の2017年12月27日に、6、7号の適合性審査に合格したが、ここで説明会をするのは原子力規制委員会のはずだ。なぜ東京電力に運転資格があるのか、原子力規制委員会が説明して質疑応答するのが最初だと思っていた。原子力規制委員会が来てその説明を受けてから、東京電力が説明するのが筋だろうと思っている。こういう段取りは原子力規制委員会と検討されてきていると思うが、今後、説明会はあるのか。(柏崎会場)

【ご回答】

本説明会の開催趣旨は、許可を頂いた事を皆さま方に、当社がしっかり説明する必要があると思ひ、開催させていただきました。原子力規制委員会は、社会との対話が重要だと考えられていると思ひますが、事業者と規制側で地域の皆さまへの説明について必ずしもコミュニケーションをとっているわけではありません。原子力規制委員会が説明に来るかどうかは、お答えする立場にありません。

今後の審査、工事計画/保安規定について

【ご質問】

原子炉の耐久性をこれから評価することだが、私たちが評価結果を見ることができるのか。(柏崎会場)

【ご回答】

これまでも評価の概略を説明させて頂いているつもりですが、工事計画認可申請書はどのような形でお伝えしていくべきか考えているところです。ご理解いただけるよう、また、専門的にならないよう、現状を含め概略をお伝えしていきたいと思ひています。また、皆さまのご意見も聞かせて頂き、わかりやすく公表させていただきたいと思ひております。

【ご質問】

合格したといっても課題がたくさんあると思う。工事計画認可、保安規定について教えてもらいたい。(刈羽会場)

【ご回答】

本日ご説明した設置変更許可というものは基本的な仕様のようなもので、設備の基本設計が安全上担保されているか審査いただいたものです。工事計画認可とは設備別に、具体的な形状や強度などについて計算書を添付し審査いただくものです。耐震性についても同様です。保安規定は、発電所を運転するにあたり守るべきルールであり、設備の維持・検査・保守管理を詳細に規定しており、これの変更を審査いただくものです。

福島第一原発事故の教訓について

【ご質問】

安全対策が進んでシビアアクシデントが防げるのか疑問だ。100%の安全対策をとったと言えるか。あの原発事故から何を学んだのか、教訓は何だったのか。
(柏崎会場)

【ご回答】

事故を考える時、「有り得ないことは、有り得ない」という事を、しっかり念頭に置きながら安全対策を進めることが重要です。安全性の追求に終わりがあってはいけない、諦めてはいけない、ということが、当時福島第一原子力発電所で対応した人間の一番の教訓です。安全性の追求には終わりが無いということが福島第一の事故で学んだことです。

社長の同席について

【ご質問】

今日は社長は来ていないのか。トップが来ていないというのはそもそも許し難い。
(柏崎会場)

【ご回答】

社長は本日ここに同席しておりません。今回の説明会については、社長に託された形で、原子力・立地本部長の私が責任者として参りました。

【ご質問】

社長が来ない。理由はなぜかおっしゃらなかった。明日は来るのか来ないのか。
(柏崎会場)

【ご回答】

社長の小早川は本日も、明日も来る予定になっておりません。私が原子力・立地本部長としてこの説明会や議会での説明会を任されて来ております。ご容赦頂きたく思います。

【ご質問】

東電の社長がこの場にこないのが不満である。我々住民は馬鹿にされたと理解せざるを得ない。なぜ来られないのか。(刈羽会場)

【ご回答】

社長の小早川がこの場に居ないことに対し、改めてお詫び申し上げます。ただ、私が原子力・立地本部長として原子力部門の責任を担っており、今回の説明会は、社長から任されて私が実施しているものです。私の責任のもとで受け答えをさせていただきます。

朝鮮半島情勢について

【ご質問】

朝鮮半島情勢はきわめて深刻になっている。戦争だったらあなた方に責任はないというのだろうが、あなた方に責任があるかどうかではなく、原発は十分狙われる。やられた場合、我々はどうすればいいのか。(柏崎会場)

【ご回答】

ミサイルについては、発電所だけで、東京電力単独で防げると考えていません。そのような情報を得たときに、発電所の監視をどうするのか、何か発電所の状況に異常があった時にはどのように通報連絡するのか、当局、警察や自衛隊と協力しながら対応するしかないだろうと思っています。そのために、平時においては当局との連携、そして合同訓練等もやっていかなければならないと思いますし、これも今、実施しています。

福島第一原子力発電所事故、原因、対応について

【ご質問】

福島第一原子力発電所事故の原因は津波だと言うが、地震の応力集中で炉心溶融を起こしたのだ。地震が起これば肉厚だけではなく、取り合い配管に応力が集中して原子炉がやられる。免震重要棟や防潮堤が液状化するが、原子炉自体も液状化するのではないか。(柏崎会場)

【ご回答】

原子炉圧力容器のような重要な機器に関しては、溶接の手法・検査など合格基準に到達するよう施工しています。そのうえで、運転を始めてからも定期的に溶接線の検査を行います。圧力容器については、実際に亀裂のような欠陥があると考えて、それでも一度に壊れないように、温度と圧力の管理を運転中に実施しています。実際に、設計・検査・運転上の維持管理を行いながら、しっかりと運営していくことが決められています。それでも、当社が考えた以上のことがあれば、しっかりと水平展開しながら管理していきます。原子炉建屋そのものは岩着しているもので、地震に関しては、震源からどういう地震動が伝わるかという事を解析したうえで、その発生応力が機器にどのように力を与えるのか、しっかり解析していきます。

【ご質問】

福島第一原子力発電所では、なぜECCS（非常用炉心冷却系）が働かなかったのか。（柏崎会場）

【ご回答】

福島第一原子力発電所の事故は、大きな地震のあと緊急停止しました。非常用発電機が自動で起動し、ECCSも通常状態でしたが、津波により電源喪失に至り、電動駆動の設備はすべて使えなくなりました。ただ、当時から電源不要の設備はありました。1号機のアイソレーションコンデンサ（IC、隔離時冷却系）も起動しましたが、温度の下がり過ぎから一度停止した後、再起動できない状態となりました。2号機、3号機はRCIC（原子炉隔離時冷却系）が動いていましたが、結果として原子炉の圧力を下げながら低圧ポンプに移行するということが巧くいきました。

柏崎では、電源の強化も必要であり、津波でも電源を喪失しない対策、電源を喪失しても復旧・復帰させる方法を考えています。第一部の当社からの説明でHPAC（高圧代替注水系）の話がありましたが、吐出量はRCICと同様で、電源が無い状態で注水できる設備として強化したものですRCICと同じ吐出量なので、原子炉圧力容器に与える影響はありません。

【ご質問】

2002年に大きな津波を想定するよう国から指摘があり、社内で15mの津波を想定していたという内部記録が裁判に記録されている。津波を想定しながら対策を講じなかったことは問題ではないか。（刈羽会場）

【ご回答】

当時、福島沖の波源の想定などを含め、状況は認識していました。学術的に本当に来るのか土木学会に問い合わせを行い、その蓋然性を確認していたのは事実です。ここで立ち止まってしまったことを含め、原子力安全改革プランに、自然現象に対する慎重な検討が足りず、防ぐべき事故を防げなかったという事実について、反省を総括しています。結果的に「想定せず」と言う表現になっておりますが、ご承知のとおり係争中の件であり、社内事故調査での報告、原子力安全改革プランで報告させて頂いている結論が、今、お話しできる全てだと考えております。

【ご質問】

福島第一原子力発電所事故作業員の4人目の被ばく者が労働災害で認定された。（刈羽会場）

【ご回答】

線量限度と労災認定に関連性はありません。労災は厚生労働省が保険給付のために定めた制度であり、白血病であれば、従事者年数において年間平均5mSvとなっています。これを超えた場合に労災認定を検討すること、となっておりいますので、労災を適用された方が、すべて科学的に被ばくが原因だと証明されたわけではありません。

【ご質問】

山本隆三氏（富士常葉大）は「関電社長は、美浜事故で関連会社の社員が死亡した責任を取り辞任。お詫びのため当該社員宅の玄関前で土下座した」と言っていた。一方、東電は福島第一原子力発電所事故直後の説明、対応方法がなかったので社会からの反発を買ったと言っている。関電社長を見習うべきだ。

（刈羽会場）

【ご回答】

福島第一原子力発電所の一連の事故から経営陣に不適切な対応があったことについて、この場でお詫び申し上げます。

断層評価ならびに関連する火山灰（テフラ）について

【ご質問】

説明資料 17 ページにある断層の活動性の問題について、G10 テフラは広域火山灰なのか。広域火山灰は、例えば北朝鮮の白頭山の噴火のように、ものすごい範囲に広がるテフラだ。G10 は広域火山灰というなら発生源は何処だと考えているか。

（柏崎会場）

【ご回答】

発電所の敷地に断層があることは、この場で何度かご回答させて頂いています。西山層の中に断層があって、西山層の上を覆う古安田層に変位や変形が及んでいるか否かで評価をしています。古安田層には広域テフラもあり、発電所 5～7 号機周辺で、約 24 万年前に九州から日本全国に広くばらまかれた阿多鳥浜テフラというものを見つけています。これをもって約 24 万年前の地層と判断しています。これが動いていない、ずらされていない、それ以後動いていない、活断層ではない、と言う評価を行っており、ご質問にあった刈羽テフラ、y-1、藤橋 40、これらが全て同じものであるということは東京電力の技術陣、地元の先生方も同じものだと仰っていて、同じものだという事に認識の相違はありません。しかしながら、年代についてそれぞれの考え方があるという状態です。刈羽テフラは、24 万年前の地層の上に出てきているので、約 20 万年前という推測に加え、その後の調査研究で、G10 と呼ばれる青森の沖の海で採れた火山灰を基準に約 20 万年前の物だという説明をしてくれています。ご質問は、この G10 が広域テフラか、ということですが、広域テフラとは日本全国、各地で見つかり、研究のうえ年代が特定できるものを広域テフラと呼んでいます。G10 という名前がついて見つかっているのはそれほど多くなく、青森のこの場所だけかもしれません。ただ、G10 が単体で出てきているわけではなく、G10 の上と下には広域テフラがあるので、広域テフラとの関係で約 20 万年前だとしています。直接、G10 が広域テフラかと問われれば、そうではありませんという回答になりますが、その年代が広域テフラとの関係で決まってきた点では、信頼度の高い説明が出来ていると思っています。発電所に活断層が無いということは火山灰の地層の年代で確認しているという事をご理解いただきたいと思います。

【ご質問】

藤橋 40 が、工科大近くの丘陵から出た。丘陵の地層を検証し、学者も何度も見て、そこに 20 万年の丘陵があるとは思っていない。12~13 万年前にできた丘。東京電力は、20 万年前の丘で、上の層は 12~13 万年前と言っている。はっきり境目を教えて下さい。(柏崎会場)

【ご回答】

前提として、西山層の中にある断層が活断層かどうかを古安田層の年代で評価しています。古安田層の下のところは 24 万年前の火山灰があります。ご指摘の部分は、24 万年前より上の部分になるため、西山層の中にある断層が活断層ではない、という説明は変わりません。藤橋にある丘が何年前かについて、当社は 1990 年代の頃から 12~13 万年の頃につくられた丘だと思っています。境目が有るか無いか、当社の調査範囲では十分なデータはありませんが、火山灰の分析や地形面の認定は問題ないと思っています。境目が有るか無いか、発電所北側で、多くのボーリング調査で地層の構造がわかり、新しい地層と古い地層の関係が評価できるため、藤橋でも似たような状態が推定できます。

他の同様な質問への回答より 24 万年前の断層が動いていないため、それ以後の断層も動いていない(活断層ではない)と評価してきています

【ご質問】

地質の質問、端的に、G10 は広域テフラか。広域テフラなら発生源はどこか。(柏崎会場)

【ご回答】

一般的に広域テフラは名称がついており、どこから何年前に、というようなものが明確になっているが、そういう観点からは G10 は広域テフラと認識されているものではないと考えます。G10 テフラは研究者の方が論文として纏め、世の中に認識され始めており、新潟と青森で同じものが見つかっているということと考えております。

【ご質問】

以前は活断層の定義が5万年前以降に動いていないものだったが、新規基準で12~13万年前以降に動いていないもの、ということになった。はっきりしなければ40万年前までさかのぼれと書いてある。我々は「刈羽テフラは安田層の中にある」と思ってきた。どこに20万年前と12~13万年前の境目があるか言って欲しい。(柏崎会場)

【ご回答】

ここでは、発電所の中と藤橋を分けて考えて頂きたいと思います。発電所の中はきっちり調査したため、情報量も多く説明できるようになっています。発電所の中は約20万年前以降動いていないことが説明できています。24万年前より上の層の刈羽テフラは20万年前のものと考えています。藤橋は、12~13万年前より深いところに、20万年前なのか13万年前のテフラなのか、納得できる状態ではないことは承知しております。その状態と発電所の中の状態に説明に食い違いがあるとは思っておらず、情報量が少ないため、藤橋は期待されるような説明ができておりませんが、食い違いや矛盾により、発電所の中の評価を変えるような状態ではないと考えております。

【ご質問】

断層は長期間動いていないから問題ないというのは説明が乱暴である。専門的に研究されている方がいるが、中越沖地震を経験した私たちには信じられない。(刈羽会場)

【ご回答】

断層に関しては、結論だけ申し上げますと、古安田層の中に24万年前の火山灰があり、それがずらされていないから5~7号機周辺の断層については、それ以降動いていないという事を認めて頂いています。24万年前の阿多鳥浜テフラが重要なポイントになっていることをご理解ください。中越沖地震の際に発電所敷地内に段差が出来て、車などが通れなくなった件については、液状化の他に地盤沈下もありました。以後、道路については液状化による段差が生じないよう対策をとっていますが、新規基準が策定される前に作った免震重要棟や防潮堤が基準を満たすことができず自主設備としたことは、建設時に、そこまで想いが至らなかったということで、その点についてはお詫びをしたいと思います。

柏崎刈羽原子力発電所の安全対策について

【ご質問】

福島第一原子力発電所の事故で高圧注水が不十分だったということで、今回、高圧注水設備を増やした。圧力が高くても注水できるというが、そんなに高圧で入れたら圧力容器そのものに変容や破壊の可能性があるのではないのか。急に冷やした場合に破壊が起きるなど危険ではないか。(柏崎会場)

【ご回答】

圧力容器には「逃がし安全弁」が付いており、加圧に対して防護しています。6~7号機は18個の弁がついており、十分防護できると考えております。

防火壁貫通部について

【ご質問】

防火壁に何十もの穴があいていた。市民の人はよく分からない。どうなっているのか、皆さんに伝えて欲しい。(柏崎会場)

【ご回答】

防火区画のための防火壁に、ケーブル・配管などを通すための貫通部 60カ所ほどに未処理部分があり、お騒がせしています。大変申し訳ないと思っています。現在、精査中であり、今後、数についても増減する可能性があります。ケーブル・配管などと壁との隙間を埋める処置については、先週から開始しまして、3月を目途に完了させる予定です。

【ご質問】

防火壁の問題、建築基準法違反だというのが本当か。建設当時のものがあるという。建築基準法についてどう考えているか。(柏崎会場)

【ご回答】

防火壁貫通部周りの処理について建築基準法に抵触しているのか、という点においてはご指摘の通りであり、大変申し訳ないと思っております。建設当初からのものが多く、現在は原因を深掘りしているところです。

【ご質問】

今までのやり取りから、防火壁の問題については違法状態が続いていると強く認識した。現場と机上の乖離。不信感を持っている。(柏崎会場)

【ご回答】

防火壁貫通部未処理の件については、改めてお詫びいたします。社員自らが発見したものであり、安全意識の向上が図られているとは感じていますが、未処置のまま放置できるものではないので、3月を目途に、鋭意、作業を行って参ります。

2017年から2018年にかけての冬の需給と予備電力の状況

【ご質問】

冒頭に事前質問で「電気は足りているのではないか」とあり、答えを頂いた。柏崎も関東圏も厳しい冬で電気を使う。他の電力会社との融通というニュースも聞いている。今年の冬の需給と予備電力の状況を教えて欲しい。(柏崎会場)

【ご回答】

今年の冬は寒波のため、電力需要も伸びています。先週から厳しい状況となり、1月22日は予備力5%となりました。予備力5%を下回ると想定される場合は、他社へ融通を依頼します。1月23日、1月24日は東北電力、中部電力に融通電力を受け、1月25日は東北電力、中部電力に加えて関西電力、1月26日は3社に加え、北海道電力、北陸電力から融通を受けました。

発電所の使用済燃料の扱い / 高レベル放射性廃棄物の最終処分について

【ご質問】

発電所の使用済燃料は8割方埋まっている。一杯になったらどうするのか。
(柏崎会場)

【ご回答】

発電所の使用済燃料プールは8割程度埋まっていますが、適切に管理しています。使用済燃料については青森県六ヶ所村の再処理工場へ運び、再処理することが当社の基本的な考えです。また、併せてリサイクル燃料貯蔵施設で保管することも同じ考え方です。

【ご質問】

最終処分場の件、昨年7月くらいに科学的特性マップが発表された。5、6、7号機と海岸の道路は東電の土地であり、東電は買収の必要もない。斜めに掘って行ってマイナス300m海の方に掘っていけばいいと本に書いてあった。そんなことはしないと確約してほしい。(柏崎会場)

【ご回答】

現在、発電所に関して、そのようなことは全く考えていません。今後については考えていないという、権限を遥かに越えている問題であり、今、言えることは、この発電所の近くで何か検討している、考えていることは無いということです。エネルギー基本計画に基づき、最終処分地は決められていくものだと考えています。

【ご質問】

使用済燃料は六ヶ所村で再処理すると聞いたが、決まったことなのか。決まっていけないのではないか。(柏崎会場)

【ご回答】

リサイクル燃料貯蔵施設をはさみ、六ヶ所村の再処理施設に持ち込む方向性で進んでいますが、再処理施設が工程遅延を何回も起こしており、実態が伴っておらず、日本原燃を支えていく立場の電力会社として、しっかりとご意見を受け止めなければならないと考えています。また、原子燃料サイクルを進めていくということについては、変更はありません。

【ご質問】

東電が再稼動すれば、核のごみが出る。青森県再処理工場は稼動していない、運転の目処も立っていない。「最終処分場を柏崎市、刈羽村で」と考えているのか。
(刈羽会場)

【ご回答】

最終処分場の件につきましては、今、この時点で発電所の中で何か考えているということは、事実として全くありません。情報レベルは皆さまと同様であり、ここで話すような情報は持ち合わせておりません。

トラブルについて

【ご質問】

この前火事を出した。いくらもしないうちにもう一回。二回目はなぜ公表しないのか。東電は次から次へとオウンゴールする。どのように考えているのか。
(柏崎会場)

【ご回答】

火事の件について、こういうトラブルを起こしたことについて、大変申し訳ないと思っています。どちらも公表していますが、1回目は直接マスコミへ、2回目の誤報はホームページでお知らせさせて頂きました。オウンゴールの件については、皆さまにご満足いただけるような結果を出せるよう、我々自身が日常の業務において細かいところに目が届くよう配慮すると共に、皆様のご意見を頂きながら進めたいと思います。

【ご質問】

柏崎刈羽原子力発電所は適合性審査中に多くの安全にかかわるトラブルが発生している。(刈羽会場)

【ご回答】

ケーブル、防火壁の問題で皆さまにご心配をおかけしたことについて、お詫び申し上げます。いずれも当社社員が見つけたもので、何か隠していたというわけではありません。安全意識の向上が図られた社員自らが発見し、現在、是正処置を行っています。

ケーブルの不適切敷設

【ご質問】

ケーブルの不適切敷設の問題で、大きな問題でないというような言い方であった。中越沖地震後の点検で完全に調査終了したはずであるのに、今回発生したことは、運転ならびに品質に関する問題である。(刈羽会場)

【ご回答】

ケーブルの問題は非常に重要で重く受け止めています。品質管理上も問題があると認識しています。発見以降、是正処置に加え、ケーブル(区分)分離がどのような重要な意味を持つのか継続的に研修を実施して、自らの力量向上に加え、担当する箇所を超えて目配りが出来るよう継続的なスキルアップに取り組んでいます。

安全の追求、発電所長の責任、覚悟

【ご質問】

原子力規制委員会の田中前委員長は「新規制基準は、安全審査ではなく、再稼働は事業者、地域住民等の関係者の合意で行われるもの」と発言している。つまり「適合審査」であり「安全審査」ではない。誰が安全を担保するのか。
(刈羽会場)

【ご回答】

適合性審査の中では、「どうしたら、国の要求に対して適合できるのか」ということを見ていただいています。適合したから100%安全だと我々も思っているわけではなく、それ以上に、安全を追求していかなければならないと自覚しています。発電所の運営、維持、管理に、責任を持っているのは発電所長の私です。ここに約束したことを保安活動という形で実現していく責任があります。万が一の事故があったときの緊急時対応に関しても、発電所長の私が責任をもって、情報発信、事故収束を、やっていく決意です。

【ご質問】

様々な災害が実際に発生した際に計画通りにいくのか疑問だ。再稼働した場合、テロや複合災害など事故の起こる可能性は0ではない。実際に柏崎刈羽原子力発電所で事故が起きた場合、責任を持って処理できるのか。(刈羽会場)

【ご回答】

事故はゼロではない。もちろん、そういうつもりで、発電所の運営に当たっていかねばならないと思っています。今、柏崎で働いている職員の中にも福島も経験し、事故処理に当たった人も大勢います。二度とこういう事故は起こしたくない、絶対起こさないぞ、という覚悟のもとに取り組んでいます。ただし、万が一にでも、そういう緊急事態になったとしても、発電所の職員は、決してこの発電所を見捨てたりせず、繰り返し行っている訓練の通り、しっかり対応する覚悟を決めています。

【ご質問】

原子力規制委員会も政府も安全の責任を負わないと言っている。電気事業者として、政府の責任をどのように考えているのかを教えてください。所長は責任をとると言ったが、できないことだと思っている。福島第一原子力発電所のような事故が起きた場合、所長が責任とるようなものではないと思う。(刈羽会場)

【ご回答】

政府の責任ということですが、賠償の仕組みは福島第一原子力発電所の事故以前からあり、福島第一の特例があり、今、まさに見直しがされようとしているところです。政府の責任とは、そういう枠組みの整備となるかと思えます。もちろん原子力政策を進めているという部分もあると思えます。一方、我々の責任は、発電所を安全に安定して運転して行くということに加え、現在、想定し得るものはもちろん、可能な限りの想定に取り込み、事故を未然に防ぐという事を不断なく取り組むということだと考えています。

【ご質問】

所長が責任をもって対処するのは当たり前だ。万が一、福島第一原子力発電所のような事故が発生した後、この刈羽村に戻り、精神的にも、財源的にも普通に生活を送れるような事故処理の覚悟を持っているのか。(刈羽会場)

【ご回答】

福島第一原子力発電所が敷地外に放射性物質を放出するに至った原因は、「止める、冷やす、閉じ込める」のうち、「閉じ込める」ことができなかったためです。一番力点を置き、設備対策、手順対策等を講じてきています。フィルタベントを使う前に新除熱システムが一義的に格納容器の閉じ込め機能に効果があると審査の中でも評価されましたが、フィルタベントを通して放出したとしても、今回のようなことにならないことを示しています。その上で、被害想定スキームや賠償スキームが変わってくるため、しっかり進めていきたいと思っています。そのような状態に至らない努力と、至ってしまった後の被害の抑制について、今時点で考えられることをやり、これからも続けていくことは一点の曇りもないと思っています。

避難 / 避難計画について

【ご質問】

長岡平野西縁断層帯の連動の想定を広げて、新潟市から十日町までの断層を東電が評価したということだが、それらの断層が動いたときに、避難に使用する道路はどうなるのか。(刈羽会場)

【ご回答】

長岡平野西縁断層帯は福島第一原子力発電所の事故を踏まえ 132km まで連動の想定範囲を広げています。発電所の想定である事から、その断層が動いた場合、発電所にどのような影響があるのか審査をしていただきました。これを基準地震動 (Ss) とし、設計などに用いています。長岡平野西縁断層帯が動いたときに発電所の敷地内の変位については、これを審査されご了承頂きました。ただ、発電所の外までは評価は出来ておりませんし、当社で説明できるものは持ち合わせておりません。

【ご質問】

オンサイトの事故対応は所長の決意を聞かせてもらったが、オフサイトについてはどう考えているのか。私は被ばくしたくない。避難計画については、直接は行わず間接的に協力すると言っている。年寄りや子供はどのようにするのか。この雪のような悪天候下ではどのようにするのか。ヨウ素剤も配る事などできるのか。(刈羽会場)

【ご回答】

オンサイト側からは、避難に重要となる情報、発電所の情報をしっかりとお伝えしていくことが最低限の責任だと思っています。繰り返しになりますが、避難計画、実際に避難しなければならないような状況になってしまった際には、我々ができるご協力・ご支援を、自治体の皆さまと、よくご相談させていただいたうえで、立案してまいります。

万一事故が生じてしまった場合、事故の収束に全力をもって発電所長があたります。万一、皆さまが避難を余儀なくされるような事態になった場合の対応は新潟本社代表の私が責任者となります。今の各自治体の避難計画に課題が無いとは思っておらず、事業者として出来る限りの支援をしていきたいと思っております。特に、要介護者の方などについては、自治体の方としっかり相談させていただきたく思います。

知事の3つの検証について

【ご質問】

知事の3つの検証に対して、東電は協力していくのか。また知事がその検証に3年かかると言っているが、同じ考えか。(刈羽会場)

【ご回答】

3つの検証について、私たち事業者側で検証に何年かかるか等はお話する立場にはありません。ただし、新潟県の皆さまにとって、3つの検証は非常に重要なものだ認識しております。会社を挙げて取り組んでいきたいと思っています。

【ご質問】

3つの検証の安全な避難方法の実効性について、被ばくなしで避難できると考えているのか。複合災害時、道路が破損し、大雪等では通行不能になると思うが、被ばくせずに避難できるのか。(刈羽会場)

【ご回答】

実効性のある避難については、現状の30km圏内の9つの市町村の計画には課題があると感じています。国・各自治体の検討会等に参加させていただき、積極的に情報提供を行い、避難計画を実効性のあるものに改定して頂ければ、と考えています。

【ご質問】

県知事の言う「3つの検証」が終了するまで、再稼働しないと思っているが、何か協力するのか。(刈羽会場)

【ご回答】

3つの検証はどれも大切なものだと考えております。我々が保有している福島第一原子力発電所や柏崎刈羽原子力発電所のデータや経験について、県から要請があれば積極的に提供していきます。

【ご質問】

県の3つの検証はかなり期待していたが、前泉田知事の記者会見が理解できない。政局に取り込まれてあのような発言をせざるを得なかったのかと残念。手のひらを返したような対応である。時の政局に巻き込まれて可哀想だと思った。村長は「安全は担保できるものであれば、止めておくべきでない。」と一貫した考えである。(刈羽会場)

【ご回答】

(ご意見として受け止め、当社側の回答なし)

地元理解

【ご質問】

新聞報道によると1月9日に社長による県知事訪問が行われた。社長は、「地元の理解が不可欠」と強調し、「検証には全面的に協力」と言われた。この地元の理解の「地元」の地域の範囲と「理解」とはどのような根拠で判断するのか。(刈羽会場)

【ご回答】

私どもにとっての地元とは、この発電所がお世話になっている刈羽村・柏崎市であることに変わりはありません。こちらを基点とし、新潟県全体を地元だと思っております。地元の皆さまのご理解を定量的に測定することは難しいところですが、手続き的には新潟県、柏崎市、刈羽村さまに同意をいただくことが必要になると考えております。

再生可能エネルギーについて

【ご質問】

東電に意見。世界は脱炭素社会に向かっている。日本は火力約9割、再エネの比率は7%とドイツの22.7%と比べて遅れている。安倍首相は13%にしているが、日本に不足しているのは変わる勇気だ。原子力発電はもう古い。すべて廃炉にして、妥協することなくすべて再エネにしてはどうか。意見なので、回答は要らない。(刈羽会場)

【ご回答】

(回答不要ということで、当社側の回答なし)

【ご質問】

世界各国は太陽光発電を発注し、再エネが進展することが予測されている。つまり、日本はエネルギー後進国になる。(刈羽会場)

【ご回答】

(ご意見として受け止め、当社側の回答なし)

各戸訪問について

【ご質問】

昨年、各戸訪問を行ったようだが、面会できた件数は何件か。どのような意見をもらったのか。(刈羽会場)

【ご回答】

訪問活動でお会いできたのは、40～50%くらいの方。村内では700弱くらいの世帯の方にはお会いできた計算になります。3年連続で実施していますが、お会いできていない方がいらっしゃるについてはお詫び申し上げます。今後は改善・工夫を行い、一人でも多くの方にお会いし、ご意見を頂けるよう、努力していきます。

発電電力量と国民負担

【ご質問】

原子力発電の総発電電力量2.7兆kWh、全電力会社で7兆kWhというデータがある。経済産業省は、原発は安価と言っているが、原発で生み出した価値は自分の試算では27兆円だが、経済産業省は東電の事故を踏まえて、事故の検討委員会は被害額22兆円、日経新聞によると50～70兆円が被害額と試算している。生み出した価値を一回の事故で利益をすべて台無しにしていると言わざるを得ない。東電は福島事故のために破産させないと経済産業省が言っている。他の電力会社の資産や国民の税金をつぎ込むという犯罪組織である。(刈羽会場)

【ご回答】

手元に数字がなく、総発電電力量などについてはお答えできなく、申し訳ありません。負担金や賠償については仰るとおり。他の電力会社を含め、皆さんにご迷惑をおかけしているのは事実です。

ご質問での総発電電力量などについては、相違ないことを確認し、閉会後にご質問された方に口頭で回答済みです。

エネルギーのコストについて

【ご質問】

原発について安価なベースロード電源と言っていたが、今回の説明を聞いて福島第一原子力発電所事故以降、安価と言えるのか。(刈羽会場)

【ご回答】

安価という言葉に誤解を与えたようで、お詫び申し上げます。社会的コストを含まず、発電コストのみで話をさせて頂きました。現在実施している安全対策工事を含めても競争力はあると考えていますが、社会的コストという観点で見れば、事故が発生すれば莫大な費用が掛かるため、比較は難しいです。

【ご質問】

1970年の福島第一原子力発電所運転開始から50年間、原子力で生み出した利益を1回の事故ですべてを失ったのではないかと。リスクの大きな発電方法はやめるべきではないかと。福島第一原子力発電所事故の賠償も終わっていない中で、なぜ安価と言えるのか。ベースロード電源という奇麗事を言うのは、やめてもらいたい。

【ご回答】

(ご意見として受け止め、当社側の回答なし)

【ご質問】

原発コストが公表されていない。東電が生み出した原発の売り上げは、今回の事故コスト22兆円で帳消しになっている。外国の再生可能エネルギーのコストは安い。(刈羽会場)

【ご回答】

再生可能エネルギーは当社も導入しており、否定するものではありません。ただ、当面、再生可能エネルギーだけではまかなえないのは事実であり、しばらくの間は、火力や原子力が大容量エネルギーを担うものと考えています。繰り返しになりますが、原子力だけ残すということではありませんので、誤解の無いようお願いいたします。

以 上